

# プログラム

18:30 - 18:40	プロローグ： 町田発ゼロ・ウェイストの会理事長 広瀬 立成
18:45 - 20:15 * 質問時間含む	講演： *同時通訳付き 『世界のゼロ・ウェイスト (ごみゼロ) は今』 セント・ローレンス大学名誉教授 ポール・コネット
20:20 - 20:30	エピローグ： 日の出の森・支える会代表 瀬戸 昌之
20:45 - 22:00	懇親会：～コネット氏を囲んで～ 場所・中華料理店「華琳 (カリン)」 駅ビル9階 (講演会場のひとつ上の階)

希望者のみ  
会費別途

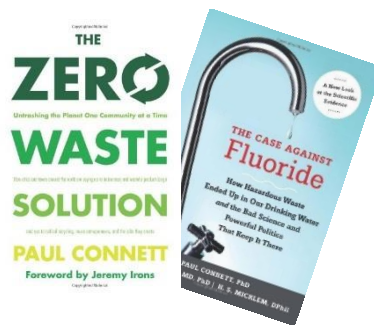
## 講演者紹介



### ポール・コネット氏 (Paul Connett)

セント・ローレンス大学環境化学名誉教授。  
「ゼロ・ウェイスト・ソリューション：捨てない地球一つの共同体」の主著者。  
ケンブリッジ大学卒、化学で博士号取得。23年間、セント・ローレンス大学で、環境化学、毒性化学の研究を進め、2006年退職した。この間、49のアメリカの大学と50ヶ国から招聘を受け、ごみ問題について、2000回におよぶ講演を行った。

2008年には、イタリアで「ゼロ・ウェイストと持続性」を出版し、また、ビデオ・シリーズも製作してきた。文字通り、「ごみ問題について世界でもっとも熟知する男」といわれている。



## ごみの現状



◀家庭金属ごみの分別。市民の手によるリサイクル広場の様子。

▶三多摩地域のごみ焼却灰をエコセメント化する工場。たえず有害ガスを排出し続ける。



## 焼却から抜けられない日本のごみ政策

日本では、1400基もの焼却炉が、年間5000万トンという大量の家庭ごみを燃やし、焼却灰が埋め立てられています。そのために、私たちは、年間2兆円もの負担を強いられているのです！

多摩地域では、400万人のごみが燃やされ、その焼却灰は「日の出町の最終処分場」に運ばれ、再資源化の名の下、エコセメントの原材料になっています。こうして埋め立て場の延命化が図られていますが、この施設は「日の出町周辺」の新たな汚染源になっています。15年前、ポールさんは、青梅市での講演で、環境に配慮しない多摩地域のごみ処理について、きびしく批判されました。

他方、世界の自治体は、ごみの削減と資源化に本腰を入れています。人口80万人のサンフランシスコ市は、2009年にゼロ・ウェイスト (ごみゼロ) 宣言を発し、ごみリサイクル80%を達成しています。また人口800万人のニューヨーク市では、2070年までに、生ごみの堆肥化を中心として、リサイクル率70%の目標を掲げました。同様に、欧州、南アメリカの多くの都市もごみの循環を目標にしており、アフリカのルワンダは、空港からの入国時、ごみになるポリ袋は全て没収するなど徹底してごみゼロに頑張っています。またお隣の韓国も、首都ソウルをはじめ、多くの都市で、生ごみ100%堆肥化を実現しつつあります。

このように、世界の国々が、次々にごみゼロを目指した活動を展開しているのですが、残念ながら、日本では、国の方針で「ごみは焼やせばよい」という産業界と官僚が癒着した旧態然とした構造から脱皮することができません。

世界のゼロ・ウェイスト (ごみゼロ) 運動推進の第一人者、ポール・コネットさんのお話は、日本のごみ政策を今一度考え、改革する上で、多くのヒントをあたえてくれるでしょう。